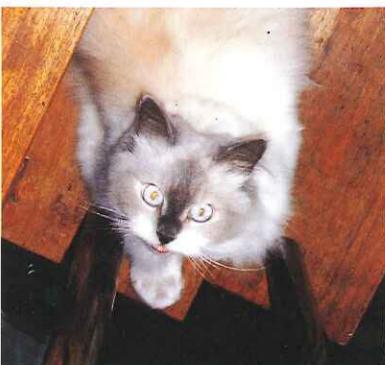
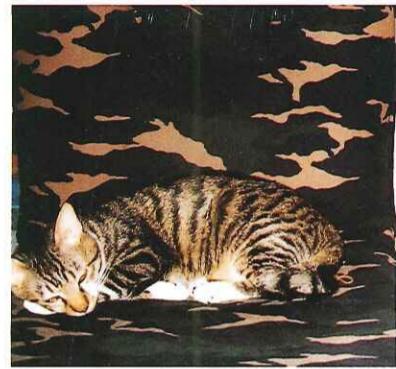


我輩は猫である
岩佐 賢一

我輩は茶太朗である
平成十一年十月の夜、我輩は死ぬところであった。そして思い切り鳴いた。その時、ご主人が我輩を抱いて暖かい部屋で体を拭いてミルクを飲ませてくれ、病院で病気を治してくれた。おかげで現在、我輩はとてもわがままに甘えん坊に育つた。

最近、三月に変わった事が起つたのである。何と我輩だけでは懲り



お利口マルちゃん

村嶋 裕子

私の実家には今、猫が一匹住んでいます。名前はマルです。毛が長いので手入れが大変で、毛玉だらけな

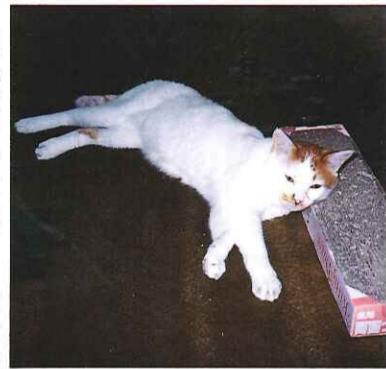
マルが私の家に来たのは、ペットを飼うことを反対していた父が、旅行中のことでした。近所の魚屋さんに丸々太った猫がいて、魚屋に猫がいるなんて、魚を泥棒しないのかと不思議に思っていたら、「こいつは魚を取らないよ。その代わりにネズミを取ってくれるんだ」と言われて、なんでお利口な猫なんだと感心していました。

母と買い物に行くたびに、その猫と一緒に遊んでいたら、「そんなに好きなら、今度子猫生まれるからあげるよ」と言われ、相談して父のいない隙に家

なかつたご主人は、また、新しい猫をもらつて來た。ご主人は、とても我輩たちの面倒を見る程の生活水準にあるとは思えないのに……。

もう「十数年前のこと、東大医科研究で実験動物として數十匹の猫を飼育していた。それぞれ個性豊かで、猫たちから学ぶことがあり面白かった」。

研究も一段落し、その中の一匹をペットとして自宅で飼うこととした。彼は製薬会社に引き取られたが、大半は拒食して死亡したと聞かされた時は言葉につまつた。



朝は頭を叩かれて起こされ、朝食時は一緒に座つてミルクを飲む。昼間はトイレが汚れたと掃除を催促さ

度、甘える仕草に楽しい想い出を沢山残してくれた。

そのナナも数年前、脳梗塞を患い、入退院をくり返し、十九才四カ月で世を去つた。

筆者は前回、姫橋の由来について述べ、源義家軍を襲つたブユの種類を調査し特定することを約束した。

水府村歴史散歩によると、姫橋碑（写真右上）と同一場所に、二十三夜尊が祀られ、毎年、七月二十三日（実際は前日の夕方行われる）に姫橋集落の人達により、夜祭り（夜祭りと言つても写真右下の前で部落の各自が蟻燭に火を付けて拝み、祭りの当番の家に集まり酒盛りをするだけ）が行われていると書いてある。

本種は人吸血性であるが、アオキツメトゲブユに比べると人に吸血に来る数は桁違いに少なく、源義家軍を襲つたブユは、キアシツメトゲブユであることに疑問が残る。

しかし、二地点から採集した幼虫と蛹の合計二百八十七個体のブユのうち、蛹が二百十六個体で、全採集数の七五・三%を占め、この地域のこの時期に大量のツメトゲブユの成虫が出ていることが伺え、もしかしたら、キアシツメトゲブユの襲撃に出会つたのかも知れない。

田川本流と支流の横谷沢の二ヵ所で行つたが、両地点からキアシツメトゲブユ一種しか採集されなかつたことに興味が持たれる。

田川本流と支流の横谷沢の二ヵ所で行つたが、両地点からキアシツメトゲブユ一種しか採集されなかつたこと

発生源と思われる山

川が流れしており、調

査は、ブユの主なる

旧暦の七月二十二

日（九月一日）にブユ

の調査に出かけた。

姫橋近辺には山田

川が流れており、調

査は、ブユの主なる

源義家軍がこの時

期にこの場所を通じにブユの襲撃を受けたと思われるので、

かくして、

かくして、